

2023(令和5)年度 聖隷クリストファー小学校学校評価書

- 目指す学校像 キリスト教精神の隣人愛を基に、日本文化を理解した上で、グローバル社会に貢献できる児童の育成を目指す。
- 育てたい児童像
  - ① 奉仕活動（サービス・ラーニング）や学校活動を通して、他人を思いやる心や行動を養う。
  - ② 一人ひとりの児童にとって、主体的・能動的な学習が成り立つ力を養う。
  - ③ 身の回りの現象を題材にしなが、教科の枠をこえた探究学習で、探究力、思考力、コミュニケーション力や表現力を養う。
  - ④ 母語を重視（概念や意味の構築）した上で英語イマージョン教育を行うことによって、二言語習得を目指し、多様な見方や場に応じた思考・判断ができる人材を育てる。
  - ⑤ 主体的に学んでいく力や自信をもって挑戦していく自己効力感の高い人材を育てる。

評価：A十分に成果があった B成果があった C少し成果があった D成果がなかった

項目	取組内容	評価指標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	評価の理由	評価	評価の理由
建学の精神	建学の精神・教育理念を理解するための教員研修実施	①教員研修を実施（年2回）	B	夏期に研修を実施した他、毎朝の礼拝、スタッフミーティングやイベント時に礼拝を守り建学の精神の浸透に務めた。	B	建学の精神の理解のための取り組みが進んでいる。
		②本学の教育理念を基にして、「BIBLE」・キリスト教行事と探究プログラム(POI)を関連づけながら、カリキュラム作成・活動を学校全体で計画・実施する。	C	「Bible」の内容、キリスト教行事とPOIを意識的、計画的に結びつけて実施することができなかった。次年度は聖書科教員・宗教部で原案を作成して各担任との連携しながら実践できるようにしたい。	C	次年度の聖書科教員・宗教部を中心に計画的に進めて充実させることが望まれる。
国際バカロレア認定	国際バカロレア初等教育プログラム（PYP）候補校としての活動をもとに、認定校に向けた準備を行う。	①国際バカロレア機構へ認定校申請書を提出する。（7月末）	A	予定どおり国際バカロレア機構へ認定校申請書を提出した。	A	計画どおり進めることができた。
		②国際バカロレア機構より、PYP認定校の認定を受ける。（3月まで）	A	PYP認定訪問を受け、特に指摘事項なく認定校となった。（2月20日付）	A	計画どおり進めることができた。
探究的な学び・英語イマージョン	探究的な学びを深めるとともに英語イマージョン教育の充実を図る	①探究プログラム（POI）における概念的な探究について、教師が理解を深め、各学年で教科別・教科横断的な指導計画を作成し、授業で展開する。	A	教師は、概念的な指導と教科横断的な指導を継続的に改善している。今後、さらなる研修（PD）により充実を図りたい。カリキュラムの適用範囲をチェックするシステムもさらに改善していきたい。	A	エキシビジョン見学を通じて、児童が探究的な学びを深めている様子が確認できた。
		②英語イマージョン教育の成果を図るため、今年度は3・6年生にオーストラリア研究評議会のISA(International School's Assessment)4技能検査を実施し、今後の指導に反映していく。	C	英語イマージョンプログラムは学年に合わせる必要があるため、学年に応じた英語技能教材導入に向け準備を進め改善を図る予定である。このプログラムにより、学年レベルのマイルストーン、構造化されたアプローチ、児童のテストを実施する予定である。	C	英語イマージョン教育については、現在計画している内容を着実に進めることでさらなる成果を期待したい。
児童理解	個々の特性に合わせた指導、支援ができるための体制を構築し、それぞれの児童の理解と適切な学習環境や方法を考え、実践する。	①発達支援コーディネーターと担任との情報交換会を定期的実施する。	B	支援員からの情報を担任と共有しながら指導に生かすことができた。	B	引き続き支援員との情報共有を指導に生かすことが求められる。
		②児童の実態に応じて支援員を適正に配置する。	A	日本人・外国人の支援員を支援の必要に応じて配置し、効果的な指導ができた。	A	計画どおり進めることができた。
		③クリストファー大学の発達支援の専門家やカウンセラーからの指導や助言を学習環境の改善に繋げていく。	B	カウンセリングを児童だけでなく保護者へも提供でき、家庭との連携がより深まった。	B	カウンセリングが保護者にも提供されて、家庭との連携が深められている。
		④ケース会議を必要に応じて開く。	D	実態に応じてどのように開催するか、ケース会議の持ち方を検討する必要がある。	D	次年度、実態に即した開催方法の検討が求められる。
児童募集	計画的・実質的な募集計画を立案実施する。	①クリストファー子ども園向け説明会を実施する。 ②聖隷福祉事業団子ども園向け出張授業を実施する。 ③授業見学会を実施する。 ④海外進出企業の対応窓口等に対して広報を行う。	D	①～④を実施したが、入学定員の確保には至っていない。計画的に実施するとともに、IB認定を分かりやすくPRし、次年度入学者の確保に務める。	D	エキシビジョン見学を通じて児童が活き活きと学んでいる様子がよく分かったため、本校の魅力をどのように発信していくかが重要である。
保護者との協力	SCESPA(保護者会)が順調に活動していけるよう役員会と連絡調整を密にとり連携を強化する。 ・研修会への参加を促す。 ・以下のワーキンググループの活動を支援する。 ①防災防犯安全 ②お手伝いボランティア ③Christopher Festival	以下の項目に関して学校が協力して進めていく。 ①本年度のSCESPAの運営に協力する。	B	・学校創立4年目・SCESPA設立2年目を迎え、会長のリーダーシップにより、協力・連携体制が安定してきた。	A	SCESPA(保護者会)と学校との協力・連携体制が構築され、活動が大変充実してきた。
		②SCESPA主催の学習会や行事に積極的に関わっていく。	B	・研修会もワーキンググループの活動も軌道に乗り積極的に活動が展開された。	A	積極的に活動が展開されている。
		③ワーキンググループ(WG)活動を学校全体で支援する。	B	・Christopher Festivalは、エージェンシーを発揮する機会となり、子どもも保護者も楽しみながら創造の喜びを体験できた。	A	積極的に活動が展開されている。
学校安全	①登下校時の安全性確保 ②防災 ③防犯	①救急救命講座・AED講習の実施（各1回）	B	講座、講習は計画的に実施し救急救命スキルを高めることができた。	B	講座、講習が計画的に進められている。
		②交通安全指導、スクールバス利用指導を実施する。	B	スクールバスの安全な乗車について繰り返し指導し改善してきたが、危ない状況が報告されることが時々ある。引き続き指導を継続していきたい。	B	交通安全指導、スクールバス利用指導を継続的に取り組むことが大切である。